

天文替え歌のつくりかた

総合天文サイト（ウソ）「天文生活」主宰 友田 哲

http://sky.geocities.jp/tenmon_seikatu/kayou/kayou.html

天文替え歌づくりのきっかけ

1988年、第27回日本SF大会（MiG-CON）に参加したとき、お目当ての企画が満員で見ることができず、何気なく「替え歌の部屋」という企画に参加した。一般参加者がSFをネタにした替え歌を歌いあうという地味な企画であったが、同好の志が手軽に盛り上がることもできる、という点に感銘を受ける。その大会のディーラーズルームで「替え歌で綴る昭和史」という同人誌を購入し、大変参考になった。

その後、各種天文イベントで「みんなの星のうた」と題した天文替え歌の刷り物を、そーっと配布している。

方針

できるだけフルコーラス、最低でもワンコーラスは作る。

仲間とカラオケで歌うとき、ワンコーラスで終了ボタンを押したり、ツーコーラスから元歌で歌ったりすると、場がシラけてしまうため、できるだけフルコーラス作るようにしている。

また、サビの部分だけいきなり歌いだすのも変なので最低でもワンコーラスは完成させている。

元歌の歌詞を生かす。

元歌との対比が替え歌の面白さでもある。サビの部分だけではなく全体的に元歌の歌詞を生かすこととし、置き換えた言葉もできるだけ韻を踏むようにする。（途中まで元歌と似ても似つかない愚痴の言葉を延々と並べサビの部分だけ無理やり合わせる、某からくりTVにありがちなものは替え歌とは言いがたい。）

元歌について

車の運転中にAMラジオで流れた曲、特に1980年代以前のヒット曲が多い。

最近の曲で歌詞の文字数が多いものは歌詞の置き換えが難しい。

また、最近では「国民的ヒット曲」が少なく、歌詞のサビの部分しか知られていない曲が多い。そのような曲を元歌とした場合、聞き手に対して替え歌として成り立ちづらい。

言葉の置き換え

昔の曲は七五調のものが多く、天文に関する3音や4音の言葉のボキャブラリーが必要となる。

天文替え歌づくりに必要なもの

天文と、天文の好きな人々への、愛。

これからの課題

日食など特定の天文現象を扱った詞について、速報性が無く「いまさら感」たっぷりのものが多い。時流に乗り遅れない作成と発表をしていきたい。

